

校長室から ひがしなら通心

(H29年度)

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 10

平成29年5月17日(水)発行

ある新聞

記事より

読売新聞5/12朝刊より

叱るよりも気持ちを聞く

子どもは時に「バカ」「死んじゃえ」など、乱暴な言葉や汚い言葉を使うことがある。頭ごなしに叱ったり注意したりするよりも、子どもに「なぜその言葉を使ったのか」を尋ね、話に耳を傾けることが大切だ。



乱暴な言葉、汚い言葉

同園によると、子どもは他の保育所から移ってきた時、仲の良い友達が引越してしまったり、環境が変わって不安を感じると、乱暴な言葉や汚い言葉を使うことが多い。そんな子どもに対しては「ごはんをきれいに食べられなね」「○○が上手」など、積極的に声をかけるとい。園長の菊地真琴さんは「肯定的な言葉をかけることで子どもも前向きになれ、自信を持てます」と話す。

「『バカ』と言われたらどんな気持ちになるかな」東京都江戸川区の船堀中央保育園の年長児クラス。4月下旬、帰宅前に開く会で、担任保育士の伊藤拓磨さんが約20人に語りかけた。子どもたちは「嫌な気持ちになるよ」「悲しくなる」などと口々に答えた。

同園では、言われてうれしい言葉を「ほかほか言葉」、悲しくなる言葉を「ちくちく言葉」と呼ぶ。話す能力が発達するこの年代の子どもたちにも、言葉の持つ力を理解してもらったためだ。



子育て支援に取り組むNPO法人ハートフルコミュニケーションション(横浜市)が開く講座には、子どもの言葉遣いに悩む親が時々参加する。代表理事の菅原裕子さんは「3、4歳くらいの場合、意味も分からずに面白がって使う場合が多い。大人が驚いて『だめよ!』などと言つと、喜んで繰り返すことがある」と語る。聞き流すなど大人が無反応だとつまらないと感じ、使わなくなるとい。『実は親のまねをしているケースがある。大人も言葉遣いを意識して』と助言する。

文部科学省の調査によると、学校内外で暴力行為に及ぶ子どもは年々増えている。特に小学校低学年で目立ち、2015年度は1年生で1085人と、5年前の約3・8倍だった。白梅学園大学教授(臨床教育学)の増田修治さんは「低学年の子どもは言葉で自分の気持ちを伝えるトレ

■乱暴な言葉、汚い言葉を直すポイント

- ・言われた相手の気持ちを考えるよう伝える
 - ・どうしてその言葉を使ったのか話を聞き、他の言い方がないか、一緒に考える
 - ・大人の反応を見て面白がっている場合もある。過剰に反応しない
 - ・大人自身も同じような言葉を使っていないか、気をつける
- (増田さん、菅原さん、菊地さんの話を基に作成)

のも、言葉が少なく感情をうまく表現できないからという。「人を傷つけるような言葉を使った時は、どんなトラブルが起き、なぜそんな言い方をしたのか、子どもの話を聞き、気持ちを受け止めることが大事」と増田さんは話す。

「ニンゲが不足しているため、思いあまってたたく・蹴るなどの暴力を選んでしまうことがある」と分析する。

「バカ」などの言葉を使う増田さんは「言葉を増やし、自分の思いを相手に伝えられるようになれば、乱暴な言葉や汚い言葉は徐々に使わなくなります」と話している。

こどもの詩

(千葉県柏市・柏第一小2年)

ごきげん
ごきげんまっすくはげんき
ごきげんななめは
ちよっとおこってる
ごきげん下は
本とうにかんかんおこってる
きょうのわたしは
ごきげんまっすく

足立 楓

いつもまっすぐだといいね。ごきげんが逆立ちしたりしませんように。(平田俊子)

PTA総会にお越しく下さい

明後日20日(土)は、午前10時から本校体育館にてPTA総会です。いろいろご事情があるにもかかわらず、PTAの役員や委員をお引き受けいただいた方々、本当にありがとうございます。「委員を引き受けると大変だ」という考えもあるようですが、委員の仕事をする中で、数多くの人とのすばらしい出会いもあることと思います。

大人が子どもたちのために、できることを笑顔で取組むPTA活動をどうぞよろしくお願いいたします。大人が笑顔にならなければ、子どもの笑顔は見られません。また、我々教職員もPTA会員です。学校も家庭も基本は子どもたちのために、健やかな成長のために、何ができるかを考えて共に手を取り合っていくことが大切だと考えます。

保護者の皆さま、総会でお会いできることを楽しみにしております。